

母と子のにわ

ー利用者のみなさまと大阪母子医療センターをつなぐー

vol.59 Autumn
2024.9月

Web版は
こちらから▶



「特定認定看護師」についてご紹介します

特定行為とは、「特定行為に係る看護師の研修制度」に基づいた研修を終了し、特定行為が可能となった看護師が、医師があらかじめ作成した「手順書」に基づき一定の診療の補助（特定行為）を行うことです。

じょくそう そうしう

私は、皮膚・排泄ケア認定看護師として褥瘡や創傷・ストーマ・排泄ケアを中心に患者さん・ご家族のケアに携わってきました。その専門性に加えて更なる知識・技術を身に付けることで、医師と連携しながら患者さんにとってより良い医療を提供したいと考え、研修を受講し、2022年より特定行為を実施しています。

特定行為と定められている医療行為は38行為あり、私は当センターにおいて、以下の3つの特定行為を実施しています。

- 気管カニューレの交換
- 胃ろうカテーテルもしくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換
- 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去



特定行為を実施する際は、ただ、その医療行為を行うだけでなく、看護師としての視点も踏まえたケアを行えるのが強みです。気管カニューレの交換や胃ろうボタンの交換の際には皮膚の観察を行い、発赤やびらんがあれば症状に対するケアを行いつつ、発生した原因を考え、原因を取り除くケアを行います。また、在宅ケアでの気になる点や困りごとなど患者さんやご家族からの相談にも対応しています。褥瘡ケアにおいては日々、傷の状態を観察し、医師の処置を待たずに早いタイミングで処置（壊死組織の除去）ができることで、治癒促進につながっています。当センターには、2024年9月現在、特定行為研修を終了した看護師が3名在籍しています。今後もよりよい医療が提供できるよう医師と連携しながら、細やかなケアを実践していきます。

特定認定看護師に関するご意見やご質問がありましたら、総合相談室にお尋ねください。

(皮膚・排泄ケア特定認定看護師 松尾 規佐)

大阪母子医療センターの得意な診療



なんちょう さまざまなかんじょうとじんこう

先天性難聴は、新生児約1,000人に1人の頻度でみられます。生後数日で行う新生児聴覚スクリーニングが普及し、早期に難聴を疑うことができ、月齢に応じた乳幼児聴覚検査やABRなどで精査を行います。特に両側難聴は言語発達遅滞につながるため、難聴を早期に発見し、早期に治療や補聴器装用、人工内耳植込術を行うことで、人の会話音域（図1）を聞き取ることができるようにして、言語発達遅滞を回避または最小限にすることが重要です。

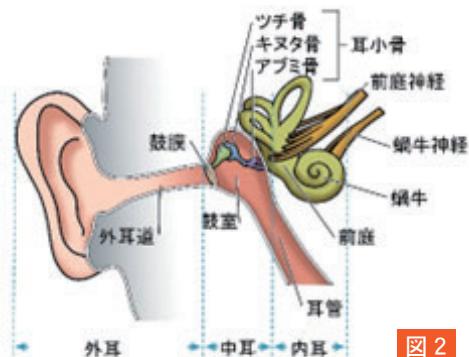


図2

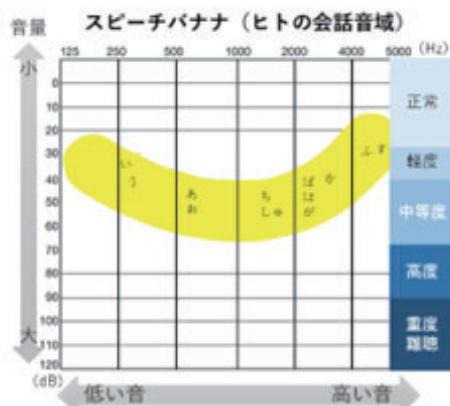


図1

難聴は、音の波を伝える構造（外耳、中耳）に異常がある
伝音性難聴と音の波を受け取る内耳、神経に異常がある
感音性難聴の2種類に分けられます（図2）。

■ 伝音性難聴について

手術による聽力改善が可能で、なるべく傷が目立たない様に、多くの場合外耳道内から内視鏡で手術を行っています。

先天性真珠腫は放置すると周囲の骨を溶かして難聴を悪化させるため、早期に発見して摘出します。再発のリスクが高いため、複数回に分けて行うことが多いです。

中耳奇形は、聴力検査が正確に受けられるようになったり、中耳炎に罹患しにくくなったりするのを待って、就学期前後に鼓室形成術を行っています。両側罹患の場合は、手術までの間、補聴器装用を勧め、指導しています。

先天性アブミ骨固着症という稀な中耳奇形では、アブミ骨手術という特殊な手術を行いますが、術前後に特に正確な聴力検査が必要となりますので、中学校進学前後以降に手術を行っています。

鼓膜穿孔は、就学期前後に鼓室形成術で閉鎖しますが、口蓋裂やダウン症などの中耳炎リスクが高い方では、10歳代後半に鼓室形成術を行うことが多いです。

■ 感音難聴について

先天性難聴の少なくとも50%は難聴遺伝子が原因と考えられていますので、特に高度・重度難聴の方へは難聴遺伝子検査をお勧めしています。聴力を改善させる根本的な治療法はありませんので、両側感音難聴では、6ヶ月齢で安定して両側補聴器装用ができることを目標に、各種精査、手続きを行い、療育施設などでコミュニケーション方法を学んでいただきます。重度難聴で1歳頃までに補聴器で45dBよりも小さな音が聞き取れないなど補聴器による効果が十分でない場合は、CT、MRIによる画像検査で中耳や内耳に奇形がないかどうかを確認したうえで、早期に両側の人工内耳植込術をお勧めします（図3）。人工内耳植え込み術後は、言語聴覚士による言語外来や療育施設、ご家庭で様々な音、言語に触れることで、音声によるコミュニケーション能力を向上していきます。

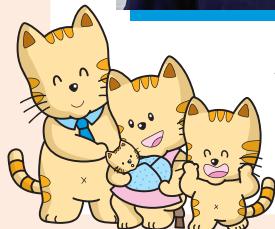


図3

新任部長のご紹介



産科 分娩部部長
林 周作



新しい命の誕生の舞台である分娩部は、病院の中でも特別な場所です。そこでの主役はお母さんと赤ちゃんであり、助演役は思いに沿った出産になるよう産婦さんを手助けする助産師です。医師は目立たず陰で支える黒衣役といったところでしょうか。しかし、分娩中や出産・出生の直後に産婦さんや赤ちゃんの状態が急変した際には、医師は黒衣の役割に留まらずに帝王切開や新生児蘇生などの緊急治療を行います。

当センターでは産婦さんと赤ちゃんの健康を守るために、産科医・新生児科医・麻酔科医が24時間いつでも分娩部に駆けつけられる体制をとっています。私はこれまで分娩部に駆けつける産科医として働いてきましたが、今後は分娩部部長として、駆け付けた各科の医師がより円滑に治療を行える環境を作りたいと思います。

また、助産師を束ねる分娩部部長と共に、医師と助産師の協働のための調整役も務めたいと思います。分娩部の助演役と黒衣役が実力を発揮して、しっかり役割を果たせば、分娩の安全性は高まります。産婦さんと赤ちゃんの新しい生活の第一幕が安全に始まるように、分娩部では助演役と黒衣役が準備を整えて主役をお待ちしています。

南海ラッピングバス広告

今年の6月から走行をスタートしました！
バスラッピングには大阪府立病院機構の
シンボルカラーである青色を使用し、
当センターのオリジナルキャラクターの
モコニヤンにも協力をお願いしました。



和泉市エリアを中心に
始発から終発まで1年間
運行しておりますので
是非見つけてみてくださいね♪



会計待ち状況を Sma-pa (スマパ) で
ご確認いただけます

待合番号を選択
→「会計」待合番号を選択
→順番が確認できます

病院外来アプリ
スマパ(Sma-pa)





当センターでは、未来を担う子どもたちが、自分の将来について考える機会になってほしいと2010年から夏休み期間中に「きっずセミナー」を開催しています。



今年度は、対面型8コース（医師手術体験、医師救命救急体験、看護師体験、助産師、放射線技師体験、薬剤師/臨床検査技師体験、心理士/理学療法士体験、研究者体験）とオンライン2コース（臨床工学技士、管理栄養士）を開催し、延べ172名の子どもたちが参加してくれました。

対面型には新しいコースもあり、定員 160 名のところに 504 名ものご応募をいただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。体験中の子どもたちの目は真剣そのもので、このセミナーをきっかけに医療職を目指してくれる子どもたちがいるのではないかと感じました。

当センターでは、これからも未来を担う子どもたちに向けて、この取り組みを続けていきます。

(母子保健調査室)



大阪母子医療センター
医師・栄養士監修

野菜ときのこの牛丼



材料（2人分）

● 牛薄切り肉	80g	
● 玉ねぎ	1/6 個	30g
● ごぼう	1/5 本	30 g
● 人参	1/10 本	20 g
● しめじ	30 g	
● 糸こんにゃく	30 g	
● だし汁	カップ 1/2 弱	90 g
● ソース	大さじ 1	18 g
● みりん	大さじ 1	18 g
● 砂糖	大さじ 1/2	4.5 g
● ごはん	200 g	
● かいわれ大根	10 g	

忙しい時の主食とおかずの合体レシピ！

忙しくて、時間がないけれどおいしいご飯が食べたい！そんなときには主食とおかずを合体させた丼はいかがでしょうか。

今回は秋の味覚であるきのこと野菜たっぷりの牛丼レシピを紹介します。きのこはビタミンD、ビタミンB群、ミネラル（カリウム・リンなど）や食物繊維が豊富に含まれています。また、低カロリーでボリュームアップにも活用できるため、ダイエット中の方にもおすすめです。

（栄養管理室）

/point /



しめじの他にもまいたけ、エリンギ、しいたけ、えのきだけなど種類豊富に組み合わせることで、きのこのいろんな食感が楽しめうまみが増し、さらにおいしくなりますよ♥

① 下ごしらえ

牛肉は一口大に切る。玉ねぎは横半分にきって5mm幅のくし切りにする。ごぼうは、薄いささがきにして軟らかく茹でる。人参はごぼうと同様に切る。しめじは石づきをとって1cm長さに切る。糸こんにゃくは熱湯で茹でて水にさらし、水気をきって2cm長さに切る。

② 煮る

鍋にAを入れて煮立て、1の野菜と糸こんにゃくを加えて煮る。玉ねぎと人参が軟らかくなるまで煮たら具を寄せて牛肉をいれ、箸でほぐして2~3分煮る。

③ 盛り付け

器にごはんを盛り、2の具をのせて煮汁をかけ、さっと茹でたかいわれ大根をのせる。

大阪母子医療センターの食育レシピ「こどもの心と体の成長・発達による食事II 幼児期」P.66に掲載されています

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

電話 0725-56-1220

FAX 0725-56-5682

<https://www.wchopho.jp/>



基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・地域と連携して母子保健を充実させます
- ・母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます